

さくらタイムス 令和5年12月号

師走は30年前シリーズの「寒い！」お話です。アメリカ中西部ウィスコンシン州でクリスマスパーティーの帰り真夜中に直径30cm程の固い雪の塊に乗り上げパンクしました。JAF類似サービスを公衆電話から呼べばよかったのですが、イブに出てもらうのも気が引け、「幼稚園時代電車一駅分を付添なく2年間往復したから30分で歩ける」と得意の無謀な心意気で雪道を歩き始めました。当地は全米最低気温記録を誇り、その夜も氷点下20度くらいだったようです。

「防寒」はほとんどしておらず、というのも車移動は建物駐車場（暖房付）から目的地の建物駐車場（暖房付）なので寒い所がなく、芦屋の冬よりも軽装でセーターに一重の上着のみ、帽子や手袋もなしでした。歩き出してすぐスパッツだけの足は膝上まで雪に埋まり、30分を過ぎても郊外の住居は遥か先で、そこからは体力もなくなり始めました。満天の星ときれいな月で人工衛星まで見えるほど透き通った空は美しく、見とれている内に睡魔も襲い始め、「ここで横になったら気持ちいいかな」とふらふらし気を失う寸前に、「五体満足で帰る」という両親との約束を思い出し、一時間あまりを必死で声を出し自分を励ましながら帰り着きました。手は冷え固まってカギを開けるのにも時間がかかりました。何はともあれバスタブで温まろうとしましたが、40度のお湯は沸騰のごとくで、「水」風呂に着衣で入りやっと「あったか〜い」と感じることができました。2日後念のため受診すると、「東京オリンピック（1964年）優勝の日本女子は東洋の魔女だったが、君は東洋のあほ（fool）だね。どうして警察・救急を呼ばなかったんだい？」とドクターに怒られました。今思い返しても本当に「さぶかった」です。

と、寒くしてしまい失礼しましたがご安心ください。さくらは瀬戸内式温暖気候の地にあり、近年は温暖化の影響で霜柱すら立ちません。特に今年は優勝チームの球場を手掛ける職人さんが冬でも緑の芝生にして下さり、ますます暖かい雰囲気となっています。これからより一層お外遊びに励み、

コロナ前の「3年の在園中インフルにかからない園児が9割」より更に元気な「さくらの子」に育てるべく皆で楽しく毎日を過ごしてゆきます。年越しに向けてますます寒く・忙しくなっていますが皆様どうぞ大切にお過ごしください。2023年も温かいお気持ちをたくさんいただきました。

本当にありがとうございました。

園長 山内 香幸